

ロシア 東欧 経済速報

発行人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215~9
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月-1,500円 1ヶ月-18,000円]

1997年(平成9年)11月25日 No.1075

目次

サハリン日本総合展-98の開催について.....池田正弘	1
キーパーソン.....	5
野に放たれた政商ベレゾフスキー/5	
統計速報.....	6
1997年1~6月のロシアの国際収支/6	
動揺するロシア・マーケット/8	
データフラッシュ/8	
ホームページ拝見(10) サハリン州.....	9
CIS諸国通貨の最新為替レート.....	9

サハリン日本総合展-98の開催について

はじめに

(社)ロシア東欧貿易会では、1998年6月23~28日にサハリン州の州都ウジユノサハリンスクにおいて、「サハリン日本総合展-98」と題する展示会を開催することになった。世紀のプロジェクトと呼ばれる石油・ガス開発プロジェクトが始動したサハリンを舞台に、我が国とロシア極東全域との経済交流の拡大を促すのが目的である。

以下では、これまでの極東における見本市事情も踏まえながら、今回の「サハリン日本総合展-98」の意義について述べてみたい。また、展示会の開催概要をお伝えするとともに、ロシア側から寄せられている期待の声もいくつか紹介する。

1. 過去の極東の見本市

ロシア極東で日本の見本市が開催されなくなって久しい。1960年代から70年代にかけては、ジェットロが主催するような大型見本市がハバロフスク等で5年、あるいは7~8年の間隔を置いて開催され、1977年から80年代末にかけての、「沿岸貿易」*が盛んになりし頃は、(社)連東欧貿易会と日ソ貿易協会の共催により、ナホトカ、ハバロフスク、イルクーツクの3都市で年に1回、多いときは春秋と2回、日本商品の見本市が開催され、今から思えば、双方にとって貴